

Point

J R 東海 労 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 89 2011. 01. 01.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

年頭に当たって

分会長 坂東貞男

明けましておめでとうございます。

昨一年間、分会活動へご協力をいただき誠にありがとうございました。昨年の活動を振り返る中で最大の闘いは、何といたっても「私たちの仲間を国政に送る」闘いでした。約8ヶ月という短い闘いではありましたが全組合員が一丸となり、ご家族・ご友人などのご協力を得て闘いを押し進めた結果、私たちの仲間を国政へ送ることが実現し、闘いに勝利しました。改めてご協力いただいた全ての皆さんにお礼を申し上げます。

しかし一方では、昨年7月に蒲郡駅事件刑事裁判で最高裁の上告棄却決定、さらには12月に民事裁判においても最高裁は上告棄却決定を下し、大変悔しい思いをしました。私たちは、司法の反動決定に満腔の怒りと悔しさでうち震えたことを決して忘れず、加藤さんを支え、加藤さんと共に今後も闘っていかねばなりません。

2011年JR東海労は、結成20年を迎える記念すべき年です。

JR東海労結成当時、会社幹部は「一年でぶっ潰す」と豪語していましたが、皆さんを始めJR東海労に結集する仲間の奮闘で、JR東海の地に労働運動の火を燈し続け、今日に至ります。この20年間、私たちを取り巻く情勢は、残念ながら会社内外を問わず厳しい状況となっており、益々私たち闘う労働組合の真価が問われています。

だからこそ大阪修繕車両所分会全組合員で、労働者らしい運動を一人一人が展開し、今年度の分会スローガンである「職場から共感を得る運動を創り出し、組織強化・拡大をかちとろう」を現実のものとして闘う仲間を増やしていこうではありませんか。

最後に、今年も組合員の皆さんそしてご家族の皆さんのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

